



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

第67回コロイドおよび界面化学討論会 市民講座および高校生科学研究ポスター発表の開催

高校生向け市民講座 「化学の将来、あなたの未来」

旭川で開催された第67回コロイドおよび界面化学討論会（9月22～24日、北海道教育大学旭川校）は当地の魅力もあり多くの参加者に恵まれた。会期中に部会初の試みとして高校生向け市民講座「化学の将来、あなたの未来～化学に進むってこういうことなんだ」と「高校生科学研究ポスター発表」を開催したので紹介する。

市民講座は、高校生に化学の楽しさを知ってもらい、化学ひいてはサイエンスを進路とすることはどういうことかを、筑波大学名誉教授白川英樹先生、海洋開発研究機構出口 茂先生、(株)資生堂渡邊裕子先生を講師に、ご経験や研究を通してわかりやすくご講演いただいた。

共催校の北海道旭川西高等学校は最北のスーパーサイエンスハイスクールであり、これまでも科学に関する講演会を開催してきた。本市民講座を共同で運営し、全校生徒と先生も参加した。また市内の中高校生やその保護者と先生も加え、900名以上となり、会場の旭川最大のホールである市民文化会館は大変盛況となった。

白川先生は、「セレンディピティーを知っていますか？～導電性高分子の発見と開発～」と題して、幼少から高校生時代を岐阜県高山市で過ごされた間に、自

然観察や、海外放送を聴くための短波ラジオ自作と電気への興味、風呂焚きで薪の燃焼を観察して化学に関心を持ち、さらには熱い弁当箱を包んだときにビニールのように融けない安定なプラスチックを作れないかという思いを育んだことがご自身の進路につながり、そしてノーベル化学賞受賞のポリアセチレンの薄膜化および導電性に関する発見につながったことを話された。2つのセレンディピティーを通して、単なる偶然や失敗でなく、偶然を待ち構える心を持つこと、そのためには生まれつきの才能ではなく、知性を努力して養うことが大切であることをお話された。

出口先生は、「深海のサイエンス：海の底に広がる極限世界の謎に迫る！」において、深海の高圧そして熱水噴出孔の高温の世界にも生物が存在すること、生物が作り出す様々な物質が現代の素材開発研究のヒントになっていることを、生徒の笑いを誘いながら語られた。

渡邊先生は、「一歩ふみ出そうとする人を科学した集合体“化粧品”研究について」と題して、泡で洗顔する洗顔料がストレスを低減すること、理想的なメイクが相手から直感的に受け入れられ記憶されやすくなる等の研究を基に、“化粧品”が人の気持ちや心に与える大切な意味をわかりやすくご講演された。



進行に旭川西高生も参加し、司会・座長を同校の大川咲紀さんと四方伊万里さんが担当し、また生徒会長の川村なぎさんが謝辞を述べた。参加の高校生にも各講演が、専門のみに留まらない身近な課題で大変面白かったと好評であった。

「高校生科学研究ポスター発表」

「討論会のポスターセッション会場の目立つ位置で、研究者が発表している中で高校生と一緒に発表する」という企画で24日に行われた討論会本体のポスターセッションの中で行われた。参加校は、北海道有朋高等学校、札幌日本大学高等学校、旭川東高等学校、旭川西高等学校の計4校で、計9件の報告があった。

セッション開始早々、多くの討論会参加者が高校生とのディスカッションを始めて大変な活気となり、研究者からは、仮説、実験、考察が的を捉えていること等、大変高い評価を得た。生徒の側も普段悩みながら研究を行っている中で、専門の研究者との討論で高度なサジェスションが得られ大変喜んでいった。

部会としてもこのような活動を今後も推進していきたい。

〔安部 裕（ライオン(株)）、
酒井秀樹（東京理科大学）、
秋田谷龍男（旭川医科大学）〕

© 2017 The Chemical Society of Japan

